

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 8 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2020

課題番号：16H03273

研究課題名（和文）睡眠障害を持つ乳幼児に対する前向き介入研究

研究課題名（英文）Prospective Intervention Study for toddlers with sleep problems

研究代表者

谷池 雅子（Taniike, Masako）

大阪大学・大学院連合小児発達学研究所・特任教授（常勤）

研究者番号：30263289

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,900,000円

研究成果の概要（和文）：世界一短い日本の子どもの睡眠時間と睡眠習慣を改善すべく、専門的かつ家庭に沿ったアドバイスを送信する双方向性睡眠啓発アプリを開発し、東大阪市で34家族への1年間の介入、加賀市、弘前市、永平寺町では合計18家族に対して半年間の介入を行なった。その結果、地域に関係なく、起床時刻の前進、入眠潜時の短縮が認められ、睡眠習慣変容への効果が実証された。特筆すべきは東大阪市での介入において1年後のドロップアウト率が8%と著しく低く、また、育児効力感がとても良くなったという感想が32%（コントロール群で6%）と子育て支援効果も認められ、ソーシャルジェットラグが短縮した子どもでは対成人社会性の促進が認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

世界一短い日本の子どもの睡眠時間とそれが誘因となりうる後年の発達の問題に対して、ウィズコロナの時代にマッチした遠隔啓発アプリを開発した。このことにより子どもの情緒を安定させ、不適応を予防できると期待する。また、神経発達症の子どもでは高頻度で睡眠障害を認めるが、睡眠習慣の改善が見込まれるツールの出現により、従来の神経発達症と睡眠障害の間の“鶏、卵議論”に終止符を打つことができる。さらに睡眠習慣の改善・改善に呼応する脳構造を同定することも可能となった。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to examine the effectiveness of the interactive smartphone app "Nenne Navi," which provides culturally and family-tailored suggestions for improving sleep habits in young Japanese children through community-based long-term trials. A total of 92% of caregivers in the application use group completed 1 year of intervention. Wake-up time was advanced and sleep onset latency was decreased significantly in the application use group at the 13th month compared to the control group. Moreover, the multiple regression analysis showed that the decrease in social jetlag in children predicted a significant improvement in the development of social relationships with adults. Six months after the end of use of the application, all caregivers reported the continuation of the new lifestyle. A similar intervention with Nenne-Navi was conducted in Kaga City, Hirosaki City, and Eihei-ji-Cho for 6 months, showing a similar efficacy for the improvement of sleep habits.

研究分野：小児睡眠学、神経発達症、発達神経病理学

キーワード：遠隔指導 幼児の睡眠 行動療法 双方向性 育児ストレス

1. 研究開始当初の背景

睡眠不足は、身体機能・脳機能に影響を与える。さらに、近年のコホート研究では、乳幼児期に睡眠時間の短かった子どもでは後年の多動性や認知機能低下のリスクが高く、3歳までの幼少期は睡眠が後年の発達に影響を与える感受性期であることが示されている。

日本の子どもは、先進国で最も睡眠時間が短いことが知られているが、日本全体に及ぶ睡眠軽視、経済の悪化、テクノロジー利用の低年齢化など複雑な要因が寄与していると推察され、一朝一夕には改善が難しい。さらに従来の保健所での面談ベースの指導は共働き家庭にはそぐわない上に、適切に指導できる小児睡眠の専門家そのものが少ない。申請者は、家庭に居ながらにして専門的アドバイスを受けることができる双方向性睡眠啓発アプリの開発に着手し、その有効性を検証した。開発にあたり留意したことは、科学的に妥当のみならず、アドバイスを遵守することで養育者のエンパワメントにつながるように、家庭の現状に沿ったスモールステップのアドバイスを送信することである。

2. 研究の目的

- 双方向性睡眠啓発アプリねんねナビ®が養育者への睡眠教育、並びにその子どもの睡眠習慣の改善に有効であることを証明する。
- 乳幼児の睡眠の問題が養育者のメンタルヘルスに与える影響について解析する。

3. 研究の方法

- 東大阪市の1歳半健診に来談した子どものうち、就寝時刻が22時以降になることがある、夜間睡眠時間が9時間未満になることがある、中途覚醒が頻回にある、の何れかを満たし、研究参加に同意した親子をリクルートした。自治体に倫理審査システムがないため、RCTデザインではなくて、参加者の希望でアプリ利用群とデータ入力のみコントロール群に分けた。
- 介入群では連続1週間の睡眠に関連する生活習慣を入力してもらい、問題となる生活習慣を抽出し、各家庭に沿ったアドバイスを複数送信し、その中から養育者が一つ選んで励行するというサイクルを毎月1回、1年間に渡り繰り返した。
- 1年後の睡眠習慣の変化、養育者の育児効力感、発達の促進について(KIDS 乳幼児発達スケールなどを用いて)アプリ参加群とコントロール群で比較した。

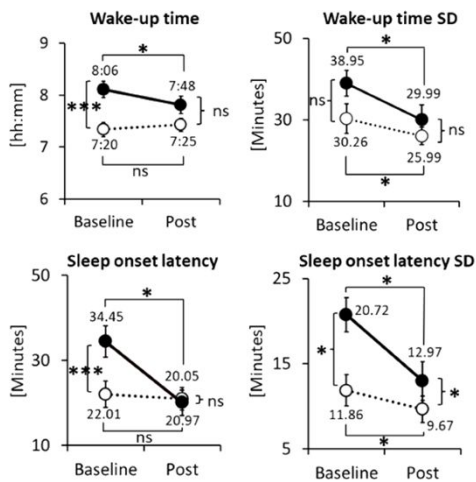
双方向性睡眠教育アプリ“ねんねナビ®”のデザイン



- 同様の睡眠基準でリクルートされた弘前市の4家族、加賀市の9家族、永平寺町の5家族に対してアプリを用いた介入を半年間行った。

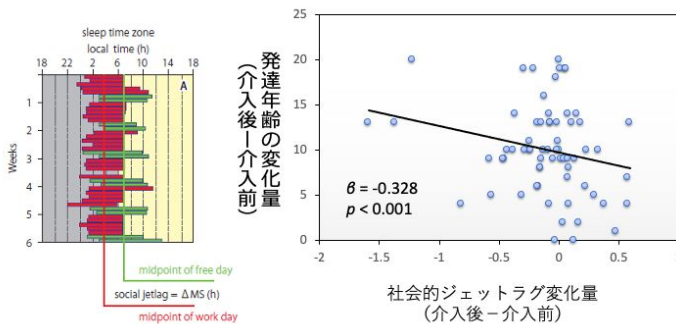
4. 研究成果

- 東大阪市の1年間の研究には、介入群36名と、データ入力のみコントロール群51名が参加した。介入群の1年後のドロップアウト率はわずか2名(8%)であり、アドヒアランスの良さは特筆すべきであった。また、弘前市、加賀市、永平寺町での半年間の介入において半年後のドロップアウトはゼロであった。さらに子育ての効力感はとても良くなったと答えた養育者がアプリ群(32%)でコントロール群(6%)に比して多かった。



- 睡眠習慣の変容についてはコントロール群(左)に比してアプリ介入群(右)では起床時刻の前進と、入眠潜時の短縮、起床時刻・入眠潜時の標準偏差の短縮(ばらつきの減少)が認められた。以上睡眠習慣改善への有効性が示された。
- 介入終了半年後のインタビューでは、多くの家庭において良い睡眠習慣を維持していることがわかった。さらに、自分で工夫をしたり、逆に他の養育者にアドバイスをする立場になったりするなどの波及効果が認められた。

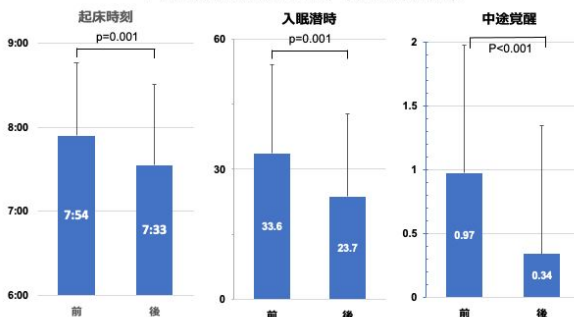
睡眠習慣の変容と発達促進の関連について



- 土日と平日の生活リズムの差(社会的ジェットラグ)が減少した子ども、すなわち、生活リズムが整った子どもでは成人に対する社会性の伸びが促進されることが判明した。

生活リズムの安定(Social Jetlagの減少)が、**対成人社会性の伸び**を促進

4自治体54名に対する半年間の介入結果



- 弘前市、加賀市、永平寺町で行った半年間の社会実装と東大阪市の介入後半年のデータを合わせた54名の解析では、起床時刻、入眠潜時、中途覚醒で改善が認められ、有効性が普遍的であることを確認した。

- 同じく4自治体における54名の解析ではまた養育者が介入後にイライラすると回答した割合が有意に減少するなど、メンタルヘルスに対する一定の効果が認められた。本研究で使用したアプリは、睡眠指標の平均・SD値等は機械的に計算し、それを参考に専門家がマニュアルでアドバイスを選択したが、並行してアドバイス選択プロセスを全自動化して、より多くの養育者・家庭にアドバイスを送ることができるように研究を進めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 30件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 Murata Emi, Yoshizaki Arika, Fujisawa Takashi X., Tachibana Masaya, Taniike Masako, Mohri Ikuko	4. 巻 19
2. 論文標題 What daily factors affect the sleep habits of Japanese toddlers?	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Sleep Medicine	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5664/jcsm.10508	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yoshizaki Arika, Murata Emi, Yamamoto Tomoka, Fujisawa Takashi X, Hanaie Ryuzo, Hirata Ikuko, Matsumoto Sayuri, Mohri Ikuko, Taniike Masako	4. 巻 11
2. 論文標題 Improving Children's Sleep Habits Using an Interactive Smartphone App: Community-Based Intervention Study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 JMIR mHealth and uHealth	6. 最初と最後の頁 e40836 ~ e40836
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/40836	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kagitani-Shimono Kuriko, Kato Hiroki, Soeda Fumihiko, Iwatani Yoshiko, Mukai Masashi, Ogawa Katsuhiko, Tominaga Koji, Nabatame Shin, Taniike Masako	4. 巻 37
2. 論文標題 Extension of microglial activation is associated with epilepsy and cognitive dysfunction in Tuberous sclerosis complex: A TSP0-PET study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 NeuroImage: Clinical	6. 最初と最後の頁 103288 ~ 103288
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.nicl.2022.103288	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Sato Akemi, Tominaga Koji, Iwatani Yoshiko, Kato Yoko, Wataya-Kaneda Mari, Makita Kai, Nemoto Kiyotaka, Taniike Masako, Kagitani-Shimono Kuriko	4. 巻 13
2. 論文標題 Abnormal White Matter Microstructure in the Limbic System Is Associated With Tuberous Sclerosis Complex-Associated Neuropsychiatric Disorders	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Neurology	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fneur.2022.782479	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsuzaki Junko, Kagitani-Shimono Kuriko, Aoki Sho, Hanaie Ryuzo, Kato Yoko, Nakanishi Mariko, Tatsumi Aika, Tominaga Koji, Yamamoto Tomoka, Nagai Yukie, Mohri Ikuko, Taniike Masako	4. 巻 44
2. 論文標題 Abnormal cortical responses elicited by audiovisual movies in patients with autism spectrum disorder with atypical sensory behavior: A magnetoencephalographic study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Brain and Development	6. 最初と最後の頁 81 ~ 94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.braindev.2021.08.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiraishi Yuki, Tachibana Masaya, Shirota Ai, Mohri Ikuko, Taniike Masako, Yamashiro Takashi, Kato Takafumi	4. 巻 44
2. 論文標題 Relationships between cortical, cardiac, and arousal-motor activities in the genesis of rhythmic masticatory muscle activity across sleep cycles in primary sleep bruxism children	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sleep	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/sleep/zsab156	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto Tomoka, Okuno Hiroko, Tatsumi Aika, Sakai Saeko, Mohri Ikuko, Taniike Masako	4. 巻 12
2. 論文標題 Use of a Sensing Device to Visualizes Group Participation in Social Skills Learning Groups	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2021.642949	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shirota Ai, Kamimura Mayo, Kishi Akifumi, Adachi Hiroyoshi, Taniike Masako, Kato Takafumi	4. 巻 12
2. 論文標題 Discrepancies in the Time Course of Sleep Stage Dynamics, Electroencephalographic Activity and Heart Rate Variability Over Sleep Cycles in the Adaptation Night in Healthy Young Adults	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Physiology	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fphys.2021.623401	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shinomiya Yasuaki, Yoshizaki Arika, Murata Emi, Fujisawa Takashi, Taniike Masako, Mohri Ikuko	4. 巻 8
2. 論文標題 Sleep and the General Behavior of Infants and Parents during the Closure of Schools as a Result of the COVID-19 Pandemic: Comparison with 2019 Data	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Children	6. 最初と最後の頁 168 ~ 168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/children8020168	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kagitani-Shimono Kuriko, Kato Hiroki, Kuwayama Ryoko, Tominaga Koji, Nabatame Shin, Kishima Haruhiko, Hatazawa Jun, Taniike Masako	4. 巻 18
2. 論文標題 Clinical evaluation of neuroinflammation in child-onset focal epilepsy: a translocator protein PET study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Neuroinflammation	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12974-020-02055-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshizaki Arika, Mohri Ikuko, Yamamoto Tomoka, Shirota Ai, Okada Shiho, Murata Emi, Hoshino Kyoko, Kato-Nishimura Kumi, Matsuzawa Shigeyuki, Kato Takafumi, Taniike Masako	4. 巻 3
2. 論文標題 An Interactive Smartphone App, Nenne Navi, for Improving Children's Sleep: Pilot Usability Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JMIR Pediatrics and Parenting	6. 最初と最後の頁 e22102 ~ e22102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/22102	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Haraki Shingo, Tsujisaka Akiko, Toyota Risa, Shiraiishi Yuki, Adachi Hiroyoshi, Ishigaki Shoichi, Yatani Hirofumi, Taniike Masako, Kato Takafumi	4. 巻 75
2. 論文標題 First night effect on polysomnographic sleep bruxism diagnosis varies among young subjects with different degrees of rhythmic masticatory muscle activity	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sleep Medicine	6. 最初と最後の頁 395 ~ 400
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.sleep.2020.08.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishii Atsuko, Okuno Hiroko, Nakaoka Takayoshi, Iwasaka Hidemi, Taniike Masako	4. 巻 17
2. 論文標題 Effectiveness of a Teacher Training Program for Students with Symptoms of Developmental Disorders: Data from a Correspondence High School in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 3100 ~ 3100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph17093100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okura Mutsumi, Nonoue Shigeru, Tsujisaka Akiko, Haraki Shingo, Yokoe Chizuko, Taniike Masako, Kato Takafumi	4. 巻 16
2. 論文標題 Polysomnographic analysis of respiratory events during sleep in young nonobese Japanese adults without clinical complaints of sleep apnea	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Sleep Medicine	6. 最初と最後の頁 1303 ~ 1310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5664/jcsm.8498	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nochino T, Ohno Y, Kato T, Taniike M, Okada S.	4. 巻 9
2. 論文標題 Sleep stage estimation method using a camera for home use.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Biomed Eng Lett	6. 最初と最後の頁 257-265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s13534-019-00108-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Aoki S, Kagitani-Shimono K, Matsuzaki J, Hanaie R, Nakanishi M, Tominaga K, Nagai Y, Mohri I, Taniike M.	4. 巻 11
2. 論文標題 Lesser suppression of response to bright visual stimuli and visual abnormality in children with autism spectrum disorder: a magnetoencephalographic study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Neurodev Disord	6. 最初と最後の頁 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s11689-019-9266-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kishi A, Haraki S, Toyota R, Shiraishi Y, Kamimura M, Taniike M, Yatani H, Kato T.	4. 巻 43
2. 論文標題 Sleep stage dynamics in young patients with sleep bruxism.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sleep	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/sleep/zsz202	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mizuno Y, Kagitani-Shimono K, Jung M, Makita K, Takiguchi S, Fujisawa TX, Tachibana M, Nakanishi M, Mohri I, Taniike M, Tomoda A.	4. 巻 9
2. 論文標題 Structural brain abnormalities in children and adolescents with comorbid autism spectrum disorder and attention-deficit/hyperactivity disorder.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Transl Psychiatry	6. 最初と最後の頁 332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/sleep/zsz202	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada T, Miura Y, Oi M, Akatsuka N, Tanaka K, Tsukidate N, Yamamoto T, Okuno H, Nakanishi M, Taniike M, Mohri I, Laugeson EA.	4. 巻 50
2. 論文標題 Examining the Treatment Efficacy of PEERS in Japan: Improving Social Skills Among Adolescents with Autism Spectrum Disorder.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Autism Dev Disord	6. 最初と最後の頁 976-997
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10803-019-04325-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Murata E, Kato-Nishimura K, Taniike M, Mohri I.	4. 巻 16
2. 論文標題 Evaluation of the validity of psychological preparation for children undergoing polysomnography.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Clin Sleep Med	6. 最初と最後の頁 167-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5664/jcsm.8158	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanigawa J, Kagitani-Shimono K, Matsuzaki J, Ogawa R, Hanaie R, Yamamoto T, Tominaga K, Nabatame S, Mohri I, Taniike M, Ozono K.	4. 巻 129
2. 論文標題 Atypical auditory language processing in adolescents with autism spectrum disorder.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Clin Neurophysiol	6. 最初と最後の頁 2029-2037
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.clinph.2018.05.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kagitani-Shimono K, Kato Y, Hanaie R, Matsuzaki J, Tanigawa J, Iwatani Y, Azuma J, Taniike M.	4. 巻 87
2. 論文標題 13. Abnormal cortical activation during an auditory word comprehension task in benign childhood epilepsy with centrottemporal spikes: A magnetoencephalographic study.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Epilepsy Behav	6. 最初と最後の頁 159-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.braindev.2018.10.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ogawa R, Kagitani-Shimono K, Matsuzaki J, Tanigawa J, Hanaie R, Yamamoto T, Tominaga K, Hirata M, Mohri I, Taniike M.	4. 巻 41
2. 論文標題 Abnormal cortical activation during silent reading in adolescents with autism spectrum disorder.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Brain Dev	6. 最初と最後の頁 234-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.braindev.2018.10.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hanaie R, Mohri I, Kagitani-Shimono K, Tachibana M, Matsuzaki J, Hirata I, Nagatani F, Watanabe Y, Katayama T, Taniike M.	4. 巻 12
2. 論文標題 Aberrant Cerebellar-Cerebral Functional Connectivity in Children and Adolescents With Autism Spectrum Disorder.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Front Hum Neurosci	6. 最初と最後の頁 454
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnhum.2018.00454	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haraki S, Tsujisaka A, Nonoue S, Nochino T, Kamimura M, Adachi H, Ishigaki S, Yatani H, Taniike M, Kato T.	4. 巻 33
2. 論文標題 Sleep Quality, Psychologic Profiles, Cardiac Activity, and Salivary Biomarkers in Young Subjects with Different Degrees of Rhythmic Masticatory Muscle Activity: A Polysomnography Study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Oral Facial Pain Headache	6. 最初と最後の頁 105-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11607/ofph.2231.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kato Y, Kagitani-Shimono K, Matsuzaki J, Hanaie R, Yamamoto T, Tominaga K, Watanabe Y, Mohri I, Taniike M.	4. 巻 16
2. 論文標題 White Matter Tract-Cognitive Relationships in Children with High-Functioning Autism Spectrum Disorder.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychiatry Investig	6. 最初と最後の頁 220-233.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.30773/pi.2019.01.16	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Honda T, Sofuku K, Matsunaga H, Tachibana M, Mohri I, Taniike M, Tomonaga K.	4. 巻 70
2. 論文標題 Detection of Antibodies against Borna Disease Virus Proteins in an Autistic Child and Her Mother.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Jpn J Infect Dis	6. 最初と最後の頁 225-227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7883/yoken.JJID.2016.277	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okuno H, Yamamoto T, Tatsumi A, Mohri I, Taniike M.	4. 巻 13
2. 論文標題 Simultaneous Training for Children with Autism Spectrum Disorder and Their Parents with a Focus on Social Skills Enhancement.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Int J Environ Res Public Health	6. 最初と最後の頁 590
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph13060590	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tachibana M, Kato T, Kato-Nishimura K, Matsuzawa S, Mohri I, Taniike M.	4. 巻 22
2. 論文標題 Associations of sleep bruxism with age, sleep apnea, and daytime problematic behaviors in children.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Oral Dis.	6. 最初と最後の頁 557-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/odi.12492	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hanaie R, Mohri I, Kagitani-Shimono K, Tachibana M, Matsuzaki J, Hirata I, Nagatani F, Watanabe Y, Fujita N, Taniike M.	4. 巻 9
2. 論文標題 White matter volume in the brainstem and inferior parietal lobule is related to motor performance in children with autism spectrum disorder: A voxel-based morphometry study.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Autism Res	6. 最初と最後の頁 981-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/aur.1605	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計81件 (うち招待講演 15件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 平田郁子, 橘 雅弥, 毛利育子, 大園恵一, 谷池雅子
2. 発表標題 小児科睡眠外来における過眠症例の検討
3. 学会等名 第64回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本知加, 田中早苗, 吉村優子, 吉崎亜里香, 下野九理子, 中西真理子, 毛利育子, 谷池雅子, 橘 雅弥
2. 発表標題 COVID-19パンデミックが神経発達症の子どもと家族に与えた影響 行動・関係性・養育者のニーズ
3. 学会等名 第64回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 神谷千織, 下野九理子, 岩谷祥子, 富永康仁, 谷口英俊, 北畠康司, 谷池雅子
2. 発表標題 乳児期早期の聴覚特性と生後18ヵ月のASD特性の関連性
3. 学会等名 第64回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 下野九理子, 岩谷祥子, 向井昌史, 小川勝洋, 富永康仁, 青天目 信, 添田文彦, 加藤弘樹, 谷池雅子
2. 発表標題 結節性硬化症診療における神経炎症PETの意義
3. 学会等名 第64回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷祥子, 下野九理子, 浅井映美子, 荒木俊彦, 寒川あゆみ, 富永康仁, 大園恵一, 谷池雅子
2. 発表標題 てんかん小児における発達特性と脳機能の検討
3. 学会等名 第64回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 渡辺珠巳, 福田優子, 奥田泰之, 谷池雅子, 毛利育子
2. 発表標題 おむつによるしめつけと乳幼児の睡眠の質との関係
3. 学会等名 第69回 日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 泉本麻耶, 下野九理子, 岩谷祥子, 加藤宏樹, 島川修一, 谷池雅子
2. 発表標題 TSPO-PETを用いて病態評価を行ったLandau-Kleffner症候群の一例
3. 学会等名 第18回 日本てんかん学会近畿地方会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 蘇 平, 谷池雅子, 毛利育子
2. 発表標題 中国語版「子どもの眠りの質問票」をつかった中国青海省における子どもの睡眠調査
3. 学会等名 第13回日本臨床睡眠医学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩谷祥子, 荒木俊彦, 寒川あゆみ, 寺岡佐也子, 浅井映美子, 谷池雅子, 下野九理子
2. 発表標題 てんかん小児における脳機能と社会性発達の検討
3. 学会等名 第52回 日本臨床神経生理学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀内愛佳, 西村倫子, 谷池雅子, 橘 雅弥
2. 発表標題 RS-MSM尺度の開発 愛着と解離の視点からの他者評価尺度
3. 学会等名 第28回 日本子ども虐待防止学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hayata-Takano A, Kikuchi T, Toyoda H, Mohri I, Tachibana M, Kato T, Taniike M, Hashimoto H
2. 発表標題 Prenatal exposure of the PGD2 receptor agonist effects on social communication and neuronal morphology in male offspring of mouse.
3. 学会等名 Neuro 2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 小児科プライマリーケアにおける睡眠の問題
3. 学会等名 第31回日本外来小児科学会年次集会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉崎亜里香, 山本知加, 村田絵美, 花家竜三, 平田郁子, 橘 雅弥, 毛利育子, 谷池雅子
2. 発表標題 双方向性スマートフォンアプリ「ねんねなび」による幼児の睡眠習慣への介入 -社会実装による有用性検討-
3. 学会等名 第63回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 蘇 平, 橘 雅弥, 谷池雅子, 毛利育子
2. 発表標題 中国語版「子どもの眠りの質問票」をつかった中国青海省における子どもの睡眠調査
3. 学会等名 第63回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橘 雅弥, 片山泰一, 谷池雅子, 横山茂, 土屋賢治, 平野好幸, 清水栄司, 松崎秀夫, 友田明美, 中村和彦, 佐藤真
2. 発表標題 子どものこころの発達研究センターから展開するアジア発達障害共同研究拠点形成と共同利用推進
3. 学会等名 第63回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村田絵美, 吉崎亜里香, 毛利育子, 橘 雅弥, 谷池雅子
2. 発表標題 幼児の睡眠に影響を与える生活習慣の検討
3. 学会等名 第63回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 神谷千織, 下野九理子, 岩谷祥子, 富永康仁, 谷口英俊, 北畠康司, 谷池雅子
2. 発表標題 生後1か月児の感覚特性と周産期要因・母親の精神状態の関連性の検討
3. 学会等名 第63回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩谷祥子, 下野九理子, 毛利育子, 中西真理子, 谷池雅子
2. 発表標題 脳波の中心側頭部棘波が認知機能に及ぼす影響についての検討
3. 学会等名 第63回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 下野九理子,加藤弘樹,谷池雅子
2. 発表標題 結節性硬化症診療における脳炎症PETの意義
3. 学会等名 第63回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤明美,下野九理子,富永康仁,岩谷祥子,金田眞理,谷池雅子
2. 発表標題 結節性硬化症における精神神経症状 (TAND) の発症要因
3. 学会等名 第63回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村田絵美, 吉崎亜里香, 毛利育子, 谷池雅子
2. 発表標題 幼児の睡眠に影響を与える生活習慣の検討
3. 学会等名 第12回 日本臨床睡眠医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 下野九理子,岩谷祥子,小川勝洋,富永康仁,青天目 信,添田文彦,加藤弘樹,谷池雅子
2. 発表標題 結節性硬化症病態における神経炎症の関与 ~ [11C]DPA-713PETを用いた検討 ~
3. 学会等名 日本脳神経外科学会 第80回学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sato A, Kagitani-Shimono K, Tominaga K, Iwatani Y, Katoh Y, Wataya-Kaneda M, Taniike M
2. 発表標題 The abnormality of white matter microstructure in the limbic system is correlated with TSC-associated neuro-psychiatric disorders (TAND).
3. 学会等名 International TSC Research Conference 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 子どもの睡眠
3. 学会等名 第568回 北九州地区小児科医会学術講演会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 日本の乳幼児の睡眠の現状を知る
3. 学会等名 日本睡眠学会第46回定期学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 子どもの健やかな脳の発達
3. 学会等名 第10回大阪大学COIシンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 幼児を対象とする双方向性睡眠啓発アプリの社会実装の経験から
3. 学会等名 日本学会議 公開シンポジウム ポストコロナ社会を見据えた睡眠・生活リズムのあり方（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 睡眠と神経発達症
3. 学会等名 第69回日本小児神経学会近畿地方会 教育講演2（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 ねんねと育ち ～お子様の成長に、睡眠が大切な理由～
3. 学会等名 加賀市子どもの命を大切にする啓発事業講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 毛利 育子, 中西 真理子, 橘 雅弥, 下野 九理子, 谷池 雅子
2. 発表標題 学業の過負荷がゲーム・ネット依存の引き金となった発達障害児2症例の検討
3. 学会等名 第62回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 下野 九理子, 平田 郁子, 橘 雅弥, 岩谷 祥子, 富永 康仁, 中西 真理子, 毛利 郁子, 大園 恵一, 谷池 雅子
2. 発表標題 大学病院発達外来における受診のニーズと課題
3. 学会等名 第62回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中西 真理子, 岩谷 祥子, 永谷 文代, 谷池 雅子
2. 発表標題 発達障害の早期診断・支援に向けた自治体と大学のコラボレーション, キッズサポートセンターさかい5年間の取り組み
3. 学会等名 第62回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橘 雅弥, 中西 真理子, 酒井 佐枝子, 平田 郁子, 下野 九理子, 毛利 育子, 大園 恵一, 谷池 雅子
2. 発表標題 大学病院小児科における科内発達障害カンファレンスの意義
3. 学会等名 第62回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平田 郁子, 橘 雅弥, 毛利 育子, 大園 恵一, 谷池 雅子
2. 発表標題 当院におけるナルコレプシーの臨床経過
3. 学会等名 第62回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩谷 祥子, 毛利 育子, 中西 真理子, 橘 雅弥, 平田 郁子, 富永 康仁, 大園 恵一, 谷池 雅子, 下野 九理子
2. 発表標題 自閉スペクトラム症における脳波異常の検討
3. 学会等名 第62回 日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹内太郎、橘雅弥、平田郁子、中西真理子、毛利育子、大園恵一、谷池雅子。
2. 発表標題 注意欠如多動症・学習障害の合併が自閉スペクトラム症の行動様式に及ぼす影響。
3. 学会等名 第122回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本小百合、田上恭子、谷池雅子、吉崎亜里香、毛利育子、橘雅弥、村田絵美、花家竜三、加藤隆史。
2. 発表標題 スマートフォンアプリを用いた子どもの睡眠アドバイスの試み。
3. 学会等名 第58回近畿公衆衛生学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuki Shiraishi, Masaya Tachibana, Ai Shirota, Ikuko Mohri, Masako Taniike, Takashi Yamashiro, Takafumi Kato.
2. 発表標題 Association between rhythmic masticatory muscle activity and sleep arousals in sleep bruxism children.
3. 学会等名 Oral Neuroscience 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平田郁子、村田絵美、橘雅弥、中西真理子、毛利育子、谷池雅子。
2. 発表標題 外来でプレパレーションを開始し、CPAP導入ができたASDの一例。
3. 学会等名 第61回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橘雅弥、平田郁子、中井理恵、林良子、谷河純平、青天目 信、加藤久美、下野九理子、毛利育子、大園恵一、谷池雅子。
2. 発表標題 ダウン症児の閉塞性睡眠時無呼吸の合併 - 当院における検査と治療の現状 -
3. 学会等名 第61回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下野九理子、岩谷祥子、橘雅弥、富永康仁、押野悟、青天目信、貴島晴彦、谷池雅子、大園恵一。
2. 発表標題 小児期発症難治性てんかんの手術有効例の長期経過についての検討。
3. 学会等名 第61回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩谷祥子、下野九理子、中井理恵、林良子、谷河純平、富永康仁、青天目信、谷池雅子、大園恵一。
2. 発表標題 Epileptic spasmsにおける言語・認知機能の検討。
3. 学会等名 第61回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本知加、辰巳愛香、吉崎亜里香、奥野裕子、毛利育子、谷池雅子。
2. 発表標題 自閉スペクトラム症児への診断名の説明とその理解～本人へのインタビュー調査より。
3. 学会等名 第66回小児保健協会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shiraishi Y, Tachibana M, Lu SY, Shirota A, Mohri I, Taniike M, Yamashiro T, Kato T.
2. 発表標題 Rhythmic masticatory muscle activity in sleep bruxism children.
3. 学会等名 2019 IADR/AADR/CADR General Session & Exhibition. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kagitani-Shimono K, Hayashi R, Iwatani Y, Tominaga K, Nabatame S, Oshino S, Kato H, Kishima H, Hatazawa J, Taniike M.
2. 発表標題 Efficacy of a novel marker of neuroinflammation in focal epilepsy.
3. 学会等名 33rd International Epilepsy Congress. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 発達に課題のある児の睡眠について考える。
3. 学会等名 日本小児科医会:第21回子ども心相談医研修会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hayata-Takano A, Mohri I, Okuda K, Tachibana M, Kikuchi T, Shintani Y, Nakazawa T, Taniike M, Hashimoto H.
2. 発表標題 Prostaglandin D2 may modulate neuronal development and morphology via activation of DP1 receptor.
3. 学会等名 第42回日本神経科学学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 子どもの睡眠とその破綻.
3. 学会等名 千里ライフサイエンスセミナーN3 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井 良、石田秀和、成田 淳、平田郁子、 橘 雅弥、谷池雅子、大園恵一.
2. 発表標題 21trisomy患児の高CO2血症が及ぼす肺血管収縮反応の検討 ~睡眠時ポリソノグラフィーと心臓カテーテル検査を用いて~.
3. 学会等名 第223回大阪小児科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩谷祥子、下野九理子、橘 雅弥、富永康仁、青天目 信、中西真理子、毛利育子、谷池雅子、大園恵一.
2. 発表標題 自閉スペクトラム症におけるてんかんと脳波異常の検討.
3. 学会等名 第53回日本てんかん学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 双方向性睡眠啓発アプリ ”ねんねナビ(R)” を用いた養育者支援.
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第8回学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 双方向性睡眠教育アプリの開発と社会実装.
3. 学会等名 第8回大阪大学COIシンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 発達障害と睡眠.
3. 学会等名 阪大女医会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 早産児の発達障害と療育へのアプローチ.
3. 学会等名 第5回近畿周産期精神保健研究会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鬼追芳行、青天目信、林良子、廣恒実加、橘 雅弥、星野恭子、谷池雅子、大園恵一。
2. 発表標題 PLA2G6-associated neurodegeneration (PLAN) の双生児例。
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Arika Yoshizaki, Tomoka Yamamoto, Yoko Aoi, Emi Murata, Ryuzo Hanaie, Shiho Okada, Shigeyuki Matsuzawa, Kyoko Hoshino, Kumi Kato-Nishimura, Rie Miyata, Ikuko Hirata, Masaya Tachibana, Ikuko Mohri, Masako Taniike.
2. 発表標題 Intervention for children's sleep habits using an interactive smartphone application
3. 学会等名 The 5th meeting of International Pediatric Sleep Association (IPSA) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryuzo Hanaie, Ikuko Mohri, Kuriko Kagitani-Shimono, Masaya Tachibana, Fumiyo Nagatani, Yoshiyuki Watanabe, Masako Taniike.
2. 発表標題 Aberrant cerebellar-cerebro functional connectivity in children and adolescents with autism spectrum disorder
3. 学会等名 INSAR 2018 Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 下野九理子、林 良子、廣恒実加、岩谷祥子、富永康仁、青天目 信、谷池雅子、大園恵一。
2. 発表標題 点頭てんかんに対するピガバトリン治療の経験
3. 学会等名 第60回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林良子、下野九理子、廣恒実加、岩谷祥子、橘雅弥、富永康仁、青天目信、毛利育子、押野悟、加藤弘樹、貴島晴彦、大園恵一、谷池雅子。
2. 発表標題 てんかん原性領域同定における[11C]-DPA713PET-CTの有用性について。
3. 学会等名 第60回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村田絵美、毛利育子、加藤久美、松澤重行、平田郁子、橘雅弥、谷池雅子。
2. 発表標題 小児の睡眠ポリソムノグラフ施行におけるプレパレーションの有効性の検討
3. 学会等名 第60回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橘雅弥、青天目信、林良子、廣恒実加、平田郁子、泉鉉吉、星野恭子、毛利育子、大園恵一、谷池雅子。
2. 発表標題 閉塞性睡眠時無呼吸を認め酷似したPSGパターンを示したPLA2G6-associated neurodegeneration (PLAN)の双生児例
3. 学会等名 第60回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永谷文代、諏訪絵里子、上西裕之、毛利育子、谷池雅子。
2. 発表標題 日本人小学生に対する教師記載日本語版実行機能行動評価尺度(BRIEF)の有効性の検討
3. 学会等名 第60回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 桃田茉莉, 吉崎亜里香, 永谷文代, 毛利育子, 西村倫子, 谷池雅子.
2. 発表標題 日本人中学生を対象にした睡眠習慣と実行機能の関連の検討
3. 学会等名 第60回日本小児神経学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 小児期における閉塞性睡眠時無呼吸症候群 診療上の問題点.
3. 学会等名 第28回顎変形小学会総会・学術集会シンポジウム「睡眠関連呼吸障害 基礎から睡眠外科治療(外科的矯正治療の応用)まで」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato H, Kagitani-Shimono K, Kishima H, Taniike M, Hatazawa J.
2. 発表標題 Optimization of C-11 DPA713 PET for pediatric patients with epilepsy: appropriate scan protocol for lesion detection.
3. 学会等名 SNMMI 2018 Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村田絵美, 毛利育子, 加藤久美, 松澤重行, 平田郁子, 橘雅弥, 谷池雅子.
2. 発表標題 小児の睡眠ポリソムノグラフィ施行におけるプレパレーションの有効性の検討
3. 学会等名 第43回睡眠学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Atsuko Ishii, Hiroko Okuno, Takayoshi Nakaoka, Hidemi Iwasaka, Masako Taniike.
2. 発表標題 Teacher Training Effectiveness at Correspondence Study High School: on Symptoms of Developmental Disorders.
3. 学会等名 40th Annual Conference of the International School Psychology Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 赤ちゃんの眠りがあぶない！ 乳児健診でどのように睡眠の指導を行うか.
3. 学会等名 第28回日本外来小児科学会年次集会 緊急ミニシンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 花家竜三、毛利育子、下野九理子、橘雅弥、谷池雅子.
2. 発表標題 自閉スペクトラム症児のDefault Mode Networkの異常について - 安静時機能的磁気共鳴画像法による研究 -
3. 学会等名 第52回日本作業療法学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tachibana M, Mohri I, Kagitani-Shimono K, Fushimi H, Inoue T, Kakuta Y, Murayama S, Nakayama M, Ozono K, Taniike M.
2. 発表標題 Clasmatodendrosis in Influenza-Associated Encephalopathy is associated with dendritic spines and does not represent autophagic astrocyte death.
3. 学会等名 19th International Congress of Neuropathology. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷池雅子、毛利育子、吉崎亜里香、村田絵美.
2. 発表標題 「双方向睡眠教育アプリ」
3. 学会等名 第7回大阪大学COIシンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村田絵美、毛利育子、加藤久美、松澤重行、平田郁子、橘雅弥、谷池雅子.
2. 発表標題 小児の睡眠ポリソムノグラフ施行におけるプレパレーションの有効性の検討
3. 学会等名 第10回 日本臨床睡眠医学会 (ISMSJ)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 桃田茉莉、吉崎亜里香、永谷文代、毛利育子、西村倫子、谷池雅子.
2. 発表標題 日本人中学生を対象にした睡眠習慣と実行機能の関連の検討.
3. 学会等名 第10回 日本臨床睡眠医学会 (ISMSJ)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白石優季、橘雅弥、毛利育子、辻阪亮子、谷池雅子、山城隆、加藤隆史.
2. 発表標題 小児睡眠時ブラキシズム患者におけるリズム性咀嚼筋運動の発生様式
3. 学会等名 第10回 日本臨床睡眠医学会 (ISMSJ)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 下野九理子、林 良子、岩谷祥子、富永康仁、青天目 信、押野 悟、加藤弘樹、貴島晴彦、畑澤 順、谷池雅子。
2. 発表標題 炎症マーカー [11C] DPA-713を用いたPETによる焦点性てんかんの局在診断
3. 学会等名 日本てんかん学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Matsuzaki J, Kagitani-Shimono K, Aoki S, Kato Y, Hanaie R, Nakanishi M, Tatsumi A, Yamamoto T, Tominaga K, Nagai Y, Mohri I, Taniike M.
2. 発表標題 Abnormal oscillatory patterns elicited by audio-visual movies in autism spectrum disorders with abnormal sensory sensitivity: A magnetoencephalographic study.
3. 学会等名 Neuroscience 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷池雅子
2. 発表標題 小児の睡眠と発達
3. 学会等名 日本小児科学会北陸地方会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shiraishi Y, Tachibana M, Lu SY, Shirota A, Mohri I, Taniike M, Yamashiro T, Kato T.
2. 発表標題 Physiological characteristics of rhythmic masticatory muscle activity during sleep in children.
3. 学会等名 9th FAOPS Congress/The 96th Annual Meeting of the Physiological Society in Japan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉崎亜里香, 青井陽子, 村田絵美, 岡田紫甫, 松澤重行, 星野恭子, 加藤久美, 山本知加, 宮田理英, 橘雅弥, 毛利育子, 谷池雅子
2. 発表標題 双方向性アプリケーションを用いた幼児の睡眠習慣への介入法の検討
3. 学会等名 第9回日本臨床睡眠医学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉崎亜里香, 青井陽子, 村田絵美, 岡田紫甫, 松澤重行, 星野恭子, 加藤久美, 宮田理英, 山本知加, 橘雅弥, 毛利育子, 谷池雅子
2. 発表標題 幼児期の眠りの問題への新たな介入法の開発 - 双方向性アプリケーションを用いて -
3. 学会等名 第11回子どもの眠り研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshizaki, A., Aoi, Y., Yamamoto, T., Murata, E., Okada, S., Matsuzawa, S., Hoshino, K., Kato-Nishimura, K., Miyata, R., Tachibana, M., Mohri, I., Taniike, M.
2. 発表標題 Development of an interactive smartphone application for the improvement of Japanese infants' sleep habits. World Sleep Congress
3. 学会等名 World Sleep Congress (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 谷池雅子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ライフ・サイエンス	5. 総ページ数 114
3. 書名 子供の睡眠を取り巻く諸問題ー明るい未来のためにー	

1. 著者名 大阪大学大学院連合小児発達学研究所	4. 発行年 2022年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 168
3. 書名 発達障がい	

〔出願〕 計0件

〔取得〕 計2件

産業財産権の名称 睡眠改善システム、端末装置及び睡眠改善方法	発明者 谷池雅子、青井陽子、毛利育子、吉崎亜里香	権利者 同左
産業財産権の種類、番号 特許、特願2017-202916	取得年 2019年	国内・外国の別 国内

産業財産権の名称 ねんねナビ	発明者 谷池雅子、青井陽子、毛利育子、吉崎亜里香	権利者 同左
産業財産権の種類、番号 意匠、商願2017-118638	取得年 2017年	国内・外国の別 国内

〔その他〕

大阪大学大学院連合小児発達学研究所 谷池研究室 http://www.ugscd.osaka-u.ac.jp/cdn/index.html
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山本 知加 (Yamamoto Tomoka) (30581558)	大阪大学・連合小児発達学研究所・助教 (14401)	
研究分担者	毛利 育子 (Mohri Ikuko) (70399351)	大阪大学・連合小児発達学研究所・准教授 (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	武井 教使 (Takei Noriyoshi) (80206937)	浜松医科大学・子どものこころの発達研究センター・教授 (13802)	
研究分担者	吉崎 亜里香 (Yoshizaki Arika) (90600552)	大阪大学・連合小児発達学研究所・特任助教（常勤） (14401)	
研究分担者	松澤 重行 (Matsuzawa Shigeyuki) (40362123)	大阪大学・連合小児発達学研究所・特任助教 (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関